

第6回（平成25年） 海洋立国推進功労者表彰 受賞者リスト

資料1

1. 「海洋立国日本の推進に関する特別な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属	功績事項
普及啓発	公益財団法人 日本財団	—	—	【多年にわたる海洋に関わる多面的かつ先駆的な諸活動】 海事・海洋に係る人材育成事業の推進、マラッカ・シンガポール海峡等の航行安全支援、我が国の海洋政策に関する提言、「渚の交番」プロジェクト及び「Sea Bird」プロジェクトの取り組み、造船所の人材育成などの取り組み、東日本大震災における海の復興支援事業や海洋関係事業に対する助成など幅広く活動。
科学技術	塚本 勝巳	64	日本大学	【ウナギの産卵と回遊に関する研究】 新しい解析手法の導入等により、ウナギ卵やふ化仔魚を採集することに世界で初めて成功し、最大級の謎であったウナギの産卵地点を特定した。また、これらの成果をNatureを含む600編以上の学術論文としてまとめるとともに書籍出版等の広報活動を行った。
科学技術	内藤 林	69	大阪大学	【船舶の実海域推進性能の先駆的研究】 実海域での波浪中抵抗を効果的に低減させるためには水面近傍の船首船型が重要であることを世界に先駆けて理論的、実験的に明らかにし、波浪中抵抗を低減する船型開発により船舶の省エネルギー化に貢献した。また、実海域推進性能の計算システムの構築や複雑な波を精度よく長時間にわたり再現できる造波水槽の開発により船の性能推定の研究に貢献した。
地域振興	安部 義孝	72	アクアマリン ふくしま	【水族館を通じた地域振興と震災復興への貢献】 「海を通して人と地域の未来を考える」という理念のもと、地域に根ざし開かれた施設づくりに努め、ボランティアの導入を積極的に進めてきたほか、多彩かつ個性的な展示ソフトを開発し、地域振興及び魚食普及にも貢献した。東日本大震災では、わずか4ヶ月という驚愕のスピードで再オープンを果たし、地域の復興のシンボルとなった。

2. 「海洋に関する顕著な功績」分野

部門	氏名・名称	年齢	所属	功績事項
科学技術振興	国立極地研究所 海洋動物研究 チーム	—	—	【海洋生物に関するバイオリギング手法の開発と水中行動・生態の解明】 小型かつ多機能な行動・環境情報記録計を海洋生物に直接とりつけて観測を行う「バイオリギング」手法を世界に先駆けて開発し、100種以上の生物について、高精度の行動・生態情報を取得することに成功した。この成果は海洋生態系に関する情報の高精度化に大きく貢献し、社会にわかりやすく発信することで、科学への関心を高めた。
水産振興	八重山 漁業協同組合	—	—	【「島人(しまんちゅ)の宝」豊かな海を守る取組】 日本最大級珊瑚礁海域を漁業者自ら海洋保護区に設定し、全国でも稀な40種以上にわたる魚類の資源管理型漁業を実践するとともに、珊瑚の天敵駆除や海底清掃に中心となって取組み、日本有数の観光資源であり環境学習の場である珊瑚礁生態系の保全活動を推進。
海事	柳原 良平	81	—	【親しみやすい作品による海事思想の普及】 複数の海運会社から名誉船長に任命されたほか、船長協会名誉会員に推薦され、船や港を題材にした作品を多く描き、船体のカラーデザインとネーミングを担当するなど、海事思想の普及に大きく貢献した。

※「自然環境保全」部門については該当者なし。
※年齢は平成25年7月9日現在。